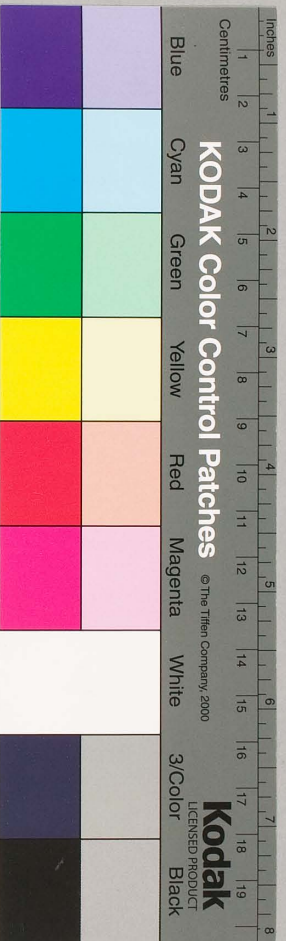




0347



都名所圖會

九青龍

291.6209

Ak

3

都名所圖會卷之三目錄

龍青龍

稻荷土師圖	稻荷社	三の峰	田中社
東福寺	通天橋	萬壽寺	泉涌寺
新結野觀音	同權現	持園	妙安寺
三十三間堂	久教之圖	後白河院	寶生院
修成院	貴源院	智積院	新田寺
大佛殿	耳塚	大佛餅屋	繼信忠依塔
洛東陶工圖	小松谷正林寺	豐國山	阿弥陀峯
清園寺	歌中山	音羽山清水寺	音羽瀧
地主權現	子安觀音	西大谷	鳥龜山
長山正法寺	三年坂	高基寺	菊谷
八坂法觀寺	庚申堂	伽羅觀音	七觀音



安井觀勝寺	金毘羅推現	午王地社	菊水
下河原	蛙池	祇園社	二軒茶屋
花見圖	双林寺	西行菴	西行樓
東大谷	長樂寺	真葛原	圓山安養寺
吉水	知恩教院	一心院	崇泰院
瓜生石	白川橋	淨猿堂	栗田天王社
佛光寺廟所	植髮堂	明智首塚	長田首塚
小堀治田地	神明社	東岩倉	將軍塚
蹴上水	日園	姥ヶ塚	淨廟野
天智天皇陵	四宮川原	法羽社	花山
溪谷	若集滅道	小町寺	山科
本願寺田地	蓮如上人塚	西本願寺淨坊	東本願寺淨坊
牛尾山	南祥寺	永觀堂	悲田梅

來運松	當の池	若王寺	光雲寺
住蓮公安寺	藤谷方丈寺	談合谷	橋門淨
墨谷金戒光寺	鎧掛松	紫雲石	真如堂
吉田社	真方遍恩寺	銀岡寺	月侍山
六文字迷火	下菜寺	將軍地藏	白川石伐
白川瀧	一系寺村	北山淨坊	詩仙堂
公龍王	赤山社	玉山社	淨蔭社
高野川	八瀨里	脊麓石	寬風呂圖
大系里	勝林院	來運院	融通寺
音金川	呂律川	後鳥羽院塔	古知谷阿弥陀寺
寂光院	汀樓	朧清水	江文社
比叡山	日吉山王	玄動寺	近江勝遠景圖
元黒谷	横川	飯室	

二月や
 初午の
 いなり
 格を
 みる
 光俊



三之峰稲荷社

後拾遺

いなり山

三の玉うね

うら

我福元

いなり

神も

あふ

恵安法師





東福寺



東福寺北門
萬壽寺



惠日山東福寺五山に第四より大和大陸一の橋にあり當寺に因り
聖一國師諱ハ辨園發別業耕人なり十歳めて天台宗を學び
十ニ才めて之太沙紙終十八才めて園城ありて髮紙判大才の
戒壇のほり受戒せりあると三井を歩く野州長樂寺ふりて
榮胡小随ひて別傳れ道紙すむび程その奥有紙極る紙款一
人皇八十六代四糸院の御宇嘉禎元年に入唐一宋の徑山寺を學
を師とせり斯て六才と経仁治二才れ秋歸胡せり寛元三〇花治
小才り九糸大相國光明筆寺殿下より東福寺紙賜く信職せり
弘安三才十月十六日七十九才めて遷化を偈曰利生方便七十九才欲
知端的佛祖不傳遷化の日當ふれ竹本急紙白色紙夢ト双樹る
枯る九十四代花園院の御宇正和のちめ謚を聖一國師と宣有を
賜る凡國師れ號ハ是よりくはるて號
山門ハハ妙雲園といハ援額あり足利將軍義持公れ筆なり



寺 涌 泉



泉涌寺惣門
新熊野社



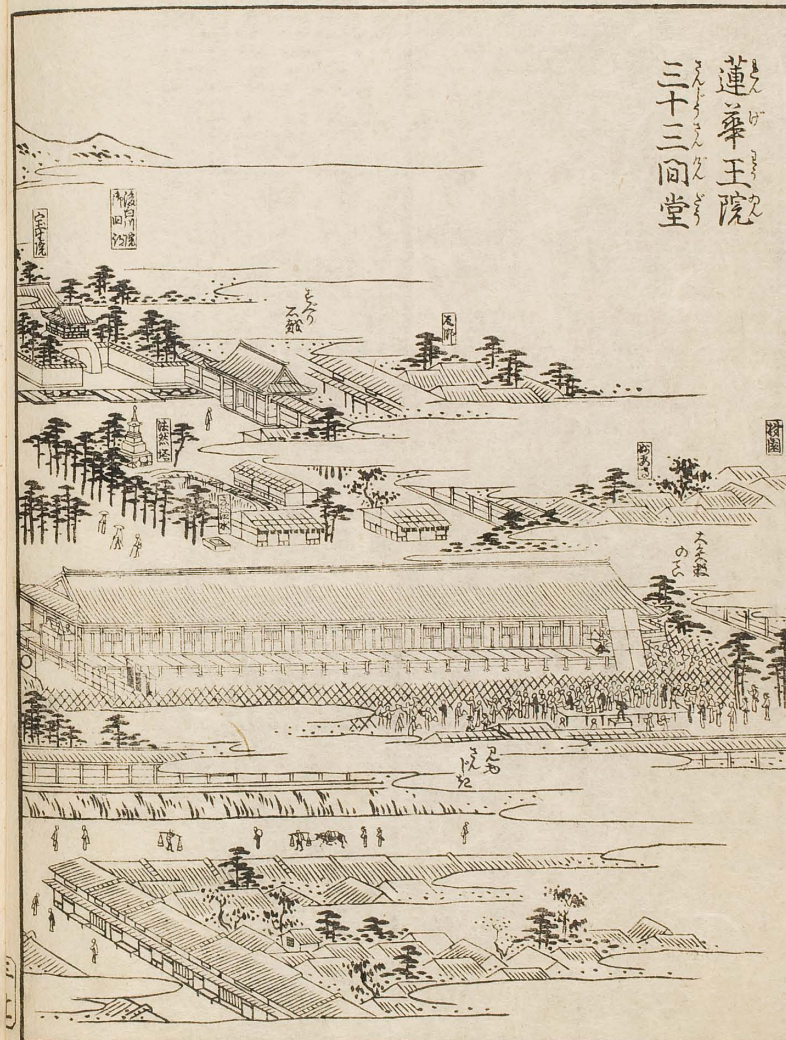
東山泉涌寺ハ大和太忍二の橋北にあり當寺の初ハ弘法大師レ開
基アリ其後文徳帝レ沛宇齊衡ニ奉ム大仁諸嗣公再建アリ
て天台宗トナシ仙遊寺ト號モ此山ハ仙人棲ビ一ノ中興の
嗣ハ後法法師號ハ我禪ヲレヨリ弘來天台真言禪律レ四宗弘
兼學ト當山の麓ハ靈泉涌出シ々々を號モ泉涌寺ト改ム
柞後法法師ハ肥後國飽田郡の人アリ仁安元年八月誕シ四ノ
天台宗の孫曉ガ弟子トナリ十八ノ若ク落髮シ十九ノ若ク
左家府レ親者アリて具足戒をうけ二十ニ歳ヲモ付家祇院
ト名宋國ニモテ四十六ノ若ク嘉定四年二月廿八日歸朝セリ
建保六年に和州の刺史中魚信房ハ崇教小ノテ我於地泉涌寺
を寄附セリ夫ノ當寺ハ僧職シテ後堀河院の沛宇嘉祿三年
閏三月八日六十二ノ若ク遷化セリ
天子レ官寺トナリハ八十代四條院を推遷セリハ帝隆徳の時

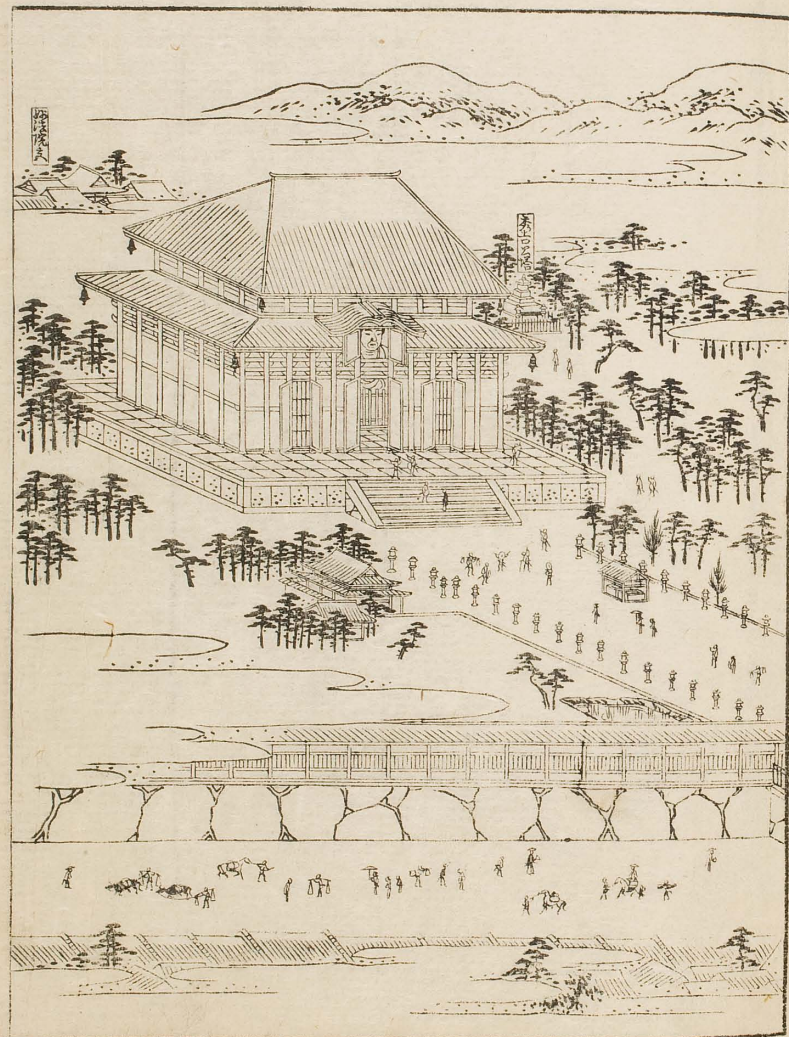
我禪々と宣ひ後我禪和尚再生して天子の位に昇り四條院と
出誕しゆふ人の愛に人々を足るなり収束代り帝當ふ
葬る奉る後ハ前帝神主教の前にあり
佛殿の本尊ハ弥勒釋迦阿彌陀の三尊を安置し東より額ハ
張即之の筆なり

舍利殿の本尊ハ佛牙の舍利より二重の金塔に安置し此佛
牙は由來より佛涅槃入りの所時羅刹足疾鬼に食害むと
佛牙を掠奪する一旅韋駄天降伏をくりぬくため益夜小教と
身を教へ給ひ給ひて佛滅後一ふ六百余条を経て大尊ハ白蓮寺道宣
律師戒香蓋修成威徳冥感も通じたりと韋駄天のちを教へ
三皈八戒をうけて具報也此佛牙取つてけりまう人々に傳へり
白蓮寺小納め金園の寶函に秘しおける日本に渡りしより當の中
興の開基後法師は末身渡海我師は宋國小流り善なり慕ひ

白蓮寺小詣一赤梅檀を供て佛牙を恭礼し作信れあり竊小舎
利城親々のよふ本々れも叶いて空く奉り小詣し猶志をわく
かこて入唐し唐の橋門三重に塔を建て袖袖衣法漢ふう人々の
うは後軍小主より白蓮寺の修造成就し大元帝基源の志を成し其
徳の凡人ふあつる来ぬとて酬答す來賓は仁とまは元令一因なり
一足は万里渡海に本懐ハ偏小佛牙の求法あり二度來朝乃未願
ちうる舎利の利益をより具小述べたれ忽佛牙の付属をより
り歡喜し涙ををりて帰帆の機ををりて人々を彼所舍利と平
朝ふり當寺の本師と崇なり

觀音堂に本尊聖觀音ハ玄宗皇帝楊貴妃小別とありて追善なり
此の觀をよりて修りし補陀落山の額も此帝に奉る此の其一
新徳那觀音ハ弘法大師の修り西國順れ觀音の具一なり
新熊野社ハ後白河法皇に祈願ありて紀州熊野之所授現と觀せり





蓮華王院三十三間堂の後白河院の御願にて備前守平忠盛奉りて
千體佛堂を建立堂東南南北六十石二石奉る千手観音乃
坐像ありて佛丈八尺佛の康慶より二十八初衆おのく壇上に安置
千手観音一千體の堂四右より後運慶遷慶に改修あり
柗後白河法皇に常に頭痛佛のせし醫療さぬくあり
うしも具驗受ありあり時熊野に御幸ありてより祈らせり
推視告く宣ふやうに法場因幡堂に天皇より海女醫ありとい
治療交ありと足み依て永暦二年二月廿二日因幡堂に参詣して
云くことく祈めよと云ふ夜貴僧忽然として又告ていへ法皇は前
生に熊野にありて蓮華坊といふ人海女に釣れて佛道を修むと
其薰功ふりて今帝位に昇りたりと云ふも前生の體にいと朽
として岩固に水底にあり其頭より柳の樹貫て生る風吹ぬに
初撞と則今身に響て此佛にありと云ふの經を云ふに苦悩

を云ふと青水に於て法皇は項より面と云て憂えたりと云ふれ
所を云ふと河底より體にありと云ふに佛の體にありと云ふ
三十三間堂を建立して蓮華王院と号すとの柳の樹に堂を築
なすむ已上平等寺又或説ふ鳥羽上皇得長壽院を造営ありて千
体の觀音を安置と後改て蓮華王院と號するなり集
佐々木本志摩堂前に夜泣泉あり傍に池ありて表のそより初夏より
燕の啼きを濃むと云ふの池の面を鹿京師に發客ありの
茶店小宴に傳して終日ありは後吳堂と當寺の佳境あり
大矢ぬの監觸に新熊野にあり別當柗坊村佛と云ふ八坂の青板の
場へ通入歸さる當に後世に休む射初一より連年決候の衆出
射佛に参りて當所より通矢の檢證と云ふ一を蒙りての金法に
を後を尾加りて是時勅あり八十と通一貞享三年四月廿七日紀州和佐
臺八師總矢一万二千五十三通矢八千二百二十三と云ふ一を得たり

新日吉社の後白門院に所勸請あり舊地に星くり菴ありて日吉坂と
今れをより所より應仁に礼に破壊を其後妙法院堯然法親王再
建し之例系毎季四月廿九日て又九月廿九日に妙法院宮中祭の礼を
智積院に宗旨真言新義より執尊に不動明王興教大師に依て同ふ
正憲法印當寺に豊臣秀吉公に棄君早世せる小祥雲寺と兼創あり
紀州根来寺滅て後元鑑派の断絶小より新義の徒足取敷て
御當家に熱祈と泉に依て祥雲寺と爲て智積院と號し新義派の學を
養源院に宗旨天台より奉る阿彌陀佛惠心に作當院に浅井は前
長政の草創ありて同ふ盛伯法平あり
修成院の本尊に元之大師傍に歡喜天と安に
寶生院の本尊毘沙門天より後白河法皇の宸紙紙安きに
妙安寺に蓮華王院南北門外池田町に堀あり虚無僧の本寺と
西國二十州あり小属に達磨普化の地に祖師と云

樹園の妙安寺の南にあり松永貞徳侯のひて造修あり

大和太師の云々大佛殿の南に妙法中法を樹雲と名づけ花見
実れるう板抄を起子昂が云々法華經板抄より云々手抄よりて
八千藏より云々人報恩慈と造り納りう内陣に戸がに聖徳太子
達磨大師に佛系人九貫之定家紫式部の肖像をより妙法院
二品法親王 堯然 後云々せり少紙云々これ戸より云々吟花廊より
芦の丸庭より人やくひ中の八日と云々小東光院殿玖山公泰勝院
玄旨法平に法楽の舎と云々下畧

貞徳翁童名勝然といひて九條殿下へより源氏物語板抄をこれ
孟澤の所抄共写内より所より今終功終られ所を跋くこれ
所を跋くこれ源氏物語のよきとせよみより三箇の大事止観の所説とて
相承して後世より考案の連合の地に教するせりて所説に
花小經道分人んゆく系の句
表はうにそりひくれぬ袖
誓とそす東野のきき鳴す

九條殿下
勝然
玄旨法平

大佛殿方廣寺の後陽成院清宇天宮なる多豊に秀吉公は清達より也
 奉尊へ庵舎那佛の坐像清宇大丈三尺佛殿を西向めりて東西廿
 七間南北四十五間あり樓門は金剛力士の大像紙垂長一丈二尺
 あり門の内外高麗大あり金魚ありて長七尺ありて豊満のやうに
 廻廊は面山百廿五間あり東西百間あり堂前より建ち上燈籠あり初
 諸候は名板刻む佛殿の表石は面石垣の大石は圓を出所の名表に
 諸候の紋所等あり廻廊の外は掃き常紙文へて極く
 慶長七年十二月四日佛殿廻廊を同十五年右大臣秀頼公
 ありて再堂ある寛文二年奉尊銅像を改て木像とあり
 右図秀吉公は石塔塔の佛殿にありて豊圓崩をて後れとあり
 との塔は石燈籠あり慶長十一年九月とあり
 撞鐘堂は面廻廊の外あり四間四方ありて柱の敷は十二本あり鐘
 の高さを六四尺指しあり九尺二寸厚とあり

継信忠信塔

佐藤氏の兄弟は忠肝
 義膽を今うて懐の
 紀信宋の天祥も
 押しつゝ英名也
 義名後世のたて
 武士のうゝ人へ
 實むるん

石塔は昔年三基と
 あり豊満あり
 次第に崩れ今
 土塵のより小園あり



洛東大佛餅の盜賊の則
方廣寺に佛殿建立の由
よりい洛東の事なり
具言善く一煎其湯に
冬の方一陸放翁が炊餅
車板の湯解ふまうところ
名堂之唐紙に代の鎮撫板
正水は等うて代々い位
一近近其名をる



大佛餅と罷本坊へ
をうりて

安樂房
傳策

白粉

の

三

ゆらなうら

かんこ

ふりさし

五
瀛亭坊

得々々羽

白砂の雪

七

あれがとに

ふとのちかて

三



耳塚二王門の前より文禄元年朝鮮征伐の時小西将は吉加着征伐を
 を大將として數萬の軍兵と討を首と日本へこころを盡さるれい
 助剿して送りけし所を埋耳塚といふ

平相國清盛公六波羅の館に今れ大佛殿に地版中央めて水八五系
 面七系版限り大和大海版門あり次平盛忠盛を代の地あり
 清盛公ふまて八境地廣大めて殿舎に珠玉版漆免梯閣みを
 香本版聚る南に方に大なる池あり傍に水庭を造るまれば池庭と
 凡亭宅に數百七拾余宇に抑ふ内府重盛公に居宅小松
 殿を二十余町に間殿宇建續々其外家長眷属は假所五千二百余
 宇ありとをふ家滅亡の後もし弟ありて小條泰時日時房等より其
 政道版の正慶二系五月千種中納言忠顯赤松良忠大軍版
 六波羅版攻め小條時益仲時後伏見上皇新帝を供奉し
 園東へ逃竊るけ時六波羅の館版に

洛東五系版入
 栗田只園主
 井觀勝主領大
 日代主制七
 はくこととの版
 煎くをみはそ
 指下とみはさう
 たり 足風おの
 希といひつね



小松谷
正林寺



小松谷正林寺の太佛殿の東にあり宗青の浄土園基の恵堂上人あり
 本堂の殿舎造りしめて九條殿の所の所お附とて壇上より高き大師
 の像安座にありの方に阿彌陀堂あり樓門の額に九條園白尚實公の
 所筆の明和年中にけり所此地にあり月輪禪定義實公の所所之
 小松殿といふ法然上人の殿の所堂にあり樹々々と黒谷傳記にあり
 小松なる小松のそと後すもにてををを松松とてををの 添堂上人
 は所より西人家の小れ方に谷あり是を小松谷といふ小松因大居士盛公
 のみ莊りて燈影堂の地あり 委の盛衰記あり

三嶋明神のや一海に馬町小例より當所の氏神ありて彦子一代
 龜を禁とてつゝあり

継信忠信の石塔は馬町小例民家のうへ海にあり石れ大塔二基銘
 曰永仁三年二月二十日願主法西とあり一基の銘なり
 阿彌陀尊の豊國の後れより慶長三年豊后赤松といふ小松なる

清雨寺



清雨寺は松谷の良しうて佐伯公行れ建立なり奉尊八千八百
の立像管神の御化なり

高倉院の陵當寺小あり

治承五年四月十四日新院の清雨寺もよく輝く

新古 小僧一 志の清雨寺は人々へは縁とて世に法を施す

小僧れ墓の後のたのしみなり高倉院の清雨寺を世に揚町

中納言の女なり 委いよる後世に花あり

歌中山を清雨寺の小音羽山の間をいふ

わが清雨寺の真燕僧が人々へは縁とて世に法を施す

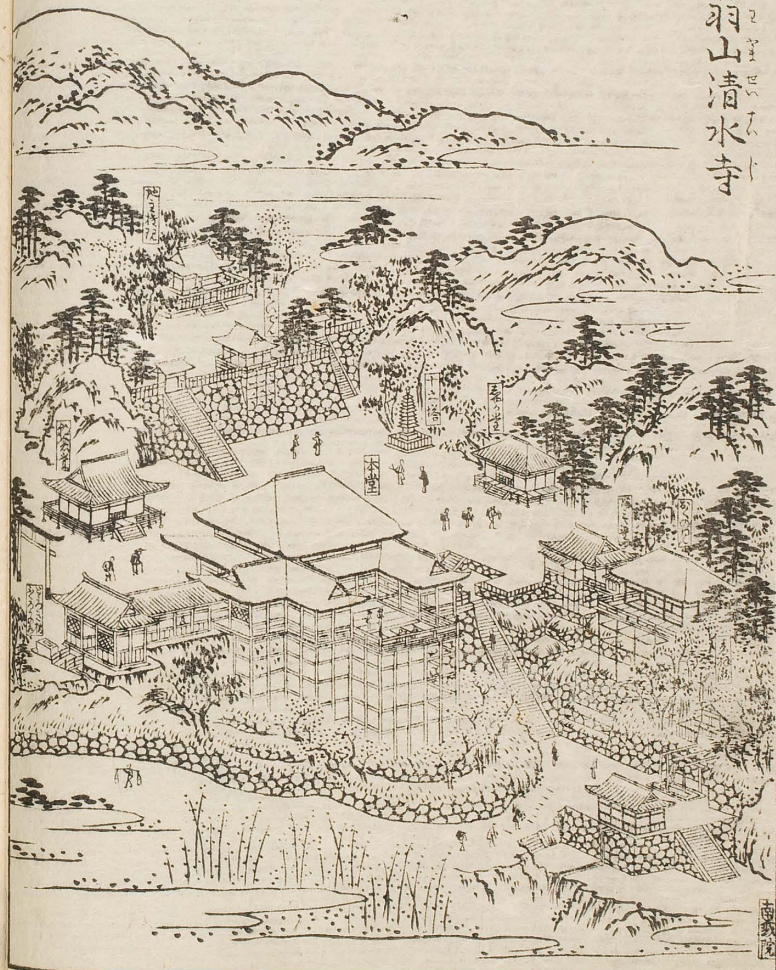
人々をえぬるわが寺の縁とて世に法を施す

愛をやりあふれおひのいふは縁とて世に法を施す

人々をえぬるわが寺の縁とて世に法を施す

人々をえぬるわが寺の縁とて世に法を施す

音羽山清水寺



新勅撰
 久松義久
 秀和の
 こころ
 いかにそと
 見る人
 むづか
 しい
 物故
 権中納言俊忠

屋をうらにまはるなり六佛殿と違ひて大慈悲像安坐なり鹿野園
脇士地藏毘沙門天延法師これなり田村九延暦二十一年に詔派
うけて東夷征討の時此奉る小形なりを觀世音地藏毘沙門天彼
戰場小現しゆひてあらく延治一の年田村九延法府
れ宣旨依當りて堂塔と建立し勅願所となり又大日二年紫雲殿
をあらて伽藍とて觀音寺依改て清水寺と號せり
奥之院の本尊を千手觀音の立像なりは地延法法師草菴
の記ありとぞ

阿弥陀堂を龍山寺と號を奉る阿弥陀佛の坐像安坐なり文治
四年五月十五日法然上人龍山寺と不斷常行念佛を因縁しゆ
今小返轉る朝倉堂に就前の圓司朝倉彈正貞景是と建た
田村堂に田村將軍軍鈴鹿権現行處延法等の像を安坐
泉水中門の西ふあり西並泉ありて地中より涌出る事寒暑に依て

地主権現なり海の大己貴命なり例系に四月九日清水坂八坂郷
れ系より當ふにむりて橋の名所ありて妻も弘生のはいり候
一入ふりたりとぞわづらふとて書を散りて瓢客れさる候
初一盃の飲りて飲を詩にくりてたをりなく小短入むとび
はけしも妻の風流なり

音羽龍奥之院の下にあり橋口之と西のり人高き四季塔
減ね

音羽ふさやに足とる白雲派明ぬとぞ多のあり高倉院
みづうに清めふれ所はせむとる小ざりたり為威

瓜形觀音ハ悉七兵衛景清凡をとりて千手觀音依石面小形之
景清守本とも傳の房室あり

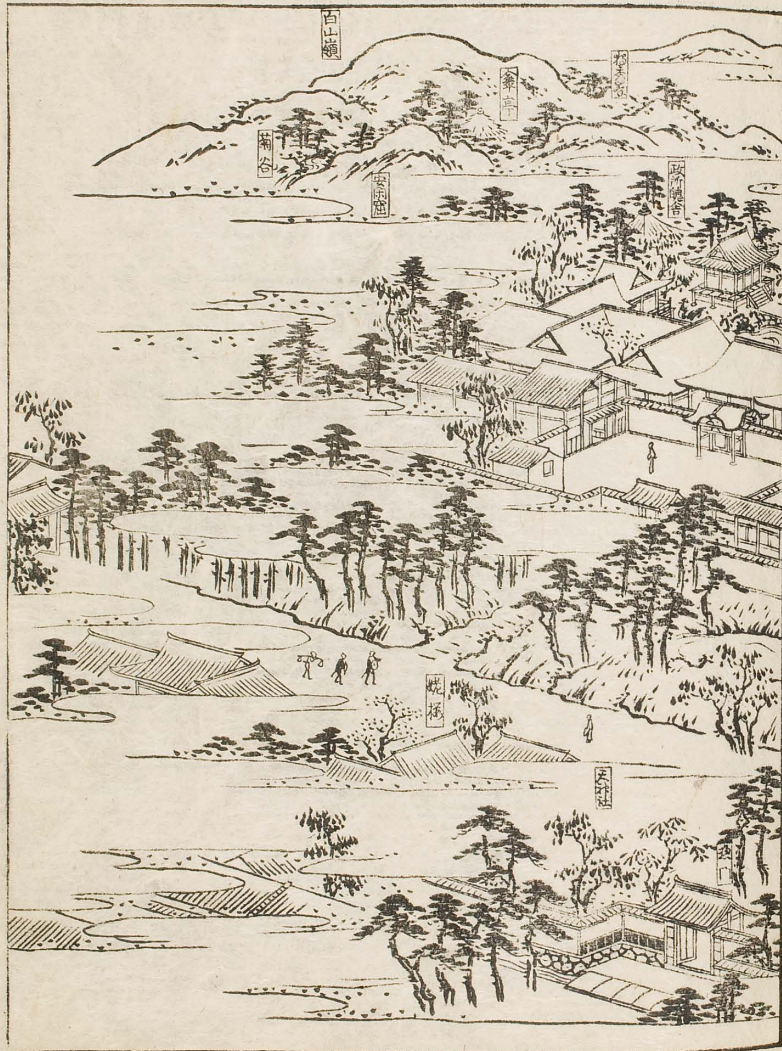
子安觀音ハ車舍馬止の南ふあり光明皇后孝謙帝と泰座一のふ
これ天照を神より授けりゆ一すハ安の觀音今ハ本尊後肉よあむ

大谷へ本願寺の廟所あり當山初免の智恩院の境地ありて中
崇泰院小それきつ然あり慶長年中にはとろぬふのり初舊号
改らる大谷と称し當寺開山親香聖人の傳記に曰東山西
麓鳥郊野南邊延仁寺に奉葬との由縁伝ふりてあるに遷と
りてより阿弥陀堂西面ありて堂内小龍谷山と云額あり
廟所はその東にあり明義堂北額あり日上人の對面所の意とある
がらん石藏あり當寺の什寶を藏むる所とあり俗に云ぬ窟と
りて大谷より後免へいり
細石と云に言はまとい
鳥邊野 或いふも 小清水坂南に小松谷伝説ありてより諸宗の
墓所あり
玉葉
名なる袖の京の多のりてくく之を乃柴乃高 後成
後永極撰政良經公に墓は太谷の小側岸の上要法寺領小あり
世人誤て原義經の墓といふ近來未敢爲石先生碑の銘を建る

聖就鳥山正法寺に往昔傳教大師開基ありて山門の別院たり中興
國阿上人住めりて宗旨を時宗と改む本堂を釈迦佛を安
置り阿弥陀堂の本尊は齒佛と号しは阿弥佛に坐しある相ありて
天照を本宮に本堂の東廊下の上小あり
又國阿上人は六菩薩公ありて慈悲ふく常に伴勢を本宮へ足註とて
起て系をたぬる附道中より女に骸骨ありて是を祓て葬通のりて本
化きて上人の如く例のい無難なり出を據りてよりと本初めれた
やとく系をたぬる故系をたぬるの途のやとく系をたぬるは是を據りて
當山の坊舎にさく絶系なり洛陽に萬戸鴨川大井川に二院愛
宕あじの峯を登山嶺の通駝すと書院より坐ありて眼の下に趣り
洛中の集會を延ばし院々を借りて饗應と

雪のぬるふとてとろろて眺むる人々涙りりふ
集
ふけのりぬ日の影のさまじに都れぬ消みさるるこ
西行





鷲峰山高皇寺の慶長年中に左衛門秀吉公北の政所所建立乃
菩提所之古の雲居寺にして自然居士住せしより宗旨の禪
中興同基を三に和尙あり

佛殿に奉尊の釋迦佛如來阿難を安置に達磨大師の御厨
子に政所公の御車を用ひらる方丈の重門に秀吉公の松栢の
を以て宮として客殿南向りて襖の画に土佐光信将野永
徳弘意了漢等より彫物彩色は麗をせり奉安の御親者
を安坐に小方丈より秀吉公の御ゆいし和尙十首を叙する
聖護院道澄法親王の御等之同山堂の額に重開と奉して
雪月堂の筆天井に政所公御車の上座に用ひらる三に和尙
常光院殿の像安坐に祖堂より廊下を臥勢として香
月堂の額ありあれは安坐に秀吉公の政所の御龕舎あり
長押小三十六歌仙をのく御画に土佐光信和合八條智仁親王

の等より具外因張の画に狩野古右衛門の筆多し一に上は筆
亭の千利休が好む所より岩栖の良れ山版あり古は岩栖院
の旧なり

當寺に大木の榊枝ありて妖艶なふ花の盛に園中より花
を採りて長衣惜むのやもろく多し又秋の頃も萩の花はみ
ぎみやびやにいろへて旅人れは萩萩と星當境に健親
あり

八坂法觀寺に上宮を子の草創より古い樓門に盛鎮守寺殿を
より破壊を経て今に終る

五重塔一基奉尊の東より左子堂あり水のりれ小堂に
薬師如來多財天歡喜を安坐にわく淨藏貴所い寺に住
せあるこれ塔大い小傾く淨藏塔あり坐して持念に胡小は衣
より小塔並りてえのめし

元亨親書

八坂法観寺

八坂の踊ハ文月なるを
くうげふのねを
あはゆるふたねを
あはゆるふたねを
目さむるふたねを
して塔のまふ塔を
あはゆるふたねを
のふたねとふた
はよりふたねを
これとてふた
つふふ一夜の
とるふたねを
延喜のふたねを
今に續てふ



八坂庚申堂ハ塔の西小あり大黒山金剛寺延喜院と号す奉尊有
金剛寺ハ長之尺又寸大寶元辛酉月七日庚申小隆臨ハ一日奉之庚
申其一二あり
伽羅の観音ハ高唐寺の南又ふ小あり青龍寺と号す奉尊有聖
観音長又尺の立像なり傳教大師ハ此寺ハて伽羅の観音ハて
彌土ハ地藏毘沙門を安んず延喜院ハ此寺ハて其一二あり

七観音ハ庚申堂の小一町あり小あり宗有ハ真言ハて奉尊ハ七観
の観世音なり則七観音院と號す中尊ハハ如意輪観世音弘法
大師の此寺ハ聖観音千手准胝十一面馬頭不空罽索等の六
族の此ハ春日ありて延喜院観音あり其一二あり

八坂といふハ直葛原南ハ清水坂ハ其の惣名なり其中にハツの
坂あり祇園坂長樂寺坂下河原坂法観寺坂靈山坂小井坂
清水坂三条坂等なり

清水坂三条坂等なり



安井観勝寺

新古今
はとひて

みれも

あぐね

な浪の

うほ

おこ

きんも

あぐね

天曆所

安井觀勝寺光明院の安井師門跡前大僧正性演再興一々古より
藤名所より崇徳天皇の后妃阿波内侍け所は信せぬ天皇保
元の乱は懐政國へ月をほしくして所歟見ふ東帯れ尊親所隨
身二人の像紙畫ての地より皇后小送りぬり其後天皇
配所松山は於て大系經を奉寫し初一首紙條のひて都の
肉小飽多んとて送りぬ

漢子多むに於てかへも身は松山に孫をのみそむ 讃岐院

細々を納言入道信西奏しより若咒咀の所をよりて所經紙
を返しりれ帝大不憤とあして大慶王とるりて天少紙腰がらう
ひるさんと誓ひ多所指の血を以て額文を書ゆひの經の相り
奉納龍宮城宅記し堆途とつし海底ふあけりぬ海上み火
燃て童子出て舞端を足紙所焼して所額成就とて宣ふま
より爪髪を截むりぬ六年を經て長寛二年八月廿六日

崩御しより所年四十六歳州松山の白峰に葬りたり 已上御記
御靈は地小來て夜く光を放り故ふ光堂ともいふ所より大園
法師といふ真言れ名僧は所よりて系經を崇徳帝尊親紙
現し世事の趣を示りたり大園より紙奏達し詔を蒙りて
堂塔殿建立し一の尊靈を鎮免なり光明院と号しより佛殿の
本尊は准旺親育より御影殿より後水尾院の宸殿明正院より
東福門院の若牌を安置しなり又弘法大師像あり眞の杖を
崇徳天皇小の方金比羅權現有の方源三位賴政世人あ
るて安井の金毘羅と称し都下れ諸人あふ所より崇徳帝
金比羅日一様ありて和光の塵を日とり擁護の明眸をこれ
より初生靈驗いれりなりとて人ふなり
當寺の門前と新更科と号し中秋の洛陽れ駭客あに集りて
東山の月と賞し今に家居繁く達するびて風景似る

牛王地社は下河原の南にあり祇園牛頭天王播磨座峯より祀れ法座
一ノ井地よりそ祇園百五十六本社よりけ社と稱し歩の程と定む
舊より例なりともや下河原を百五十六路といふ事あり舊記に云く
菊水井は日所東方にあり潋泉みして茶のみ可なり菊洞の下流は
やくりあり故に號るとそ祇園なるがれまの樹をくり是より安井惣内
紀元天の社の教を通達せんとて櫻川ふ入
蛙ヶ池の古名に下河原の西安井ある通民家の奥ありむけ地は妙法院
佛門跡尊性法師親王性惠法親王住せりよされ紙小坂殿といふ四条の
南をれば綾小路宮とも号に慶運往生秘解曰綾小路といひ後高倉の皇子
天台座主ふそなりはせんげんがねをさくるまゝせんげんは任ぬい小
坂殿の棟は移れわれわすれ地の性成らうといひる紙出きでるまじりたり
徒然草あやの夢のつち綾小路宮にありまた小坂殿の棟にやりど縄といへるじこバ
二曰彼よりいひ出づるは作み穢や鳥のむれわすれ地の性成らうといへる所覺ト
照しき心持をせんといふ人の語りよしと小坂殿の棟考又長束の所覺律師を
小坂殿といふものもあらかりけり

下河原いむり
むなる今も昔もの
より谷川流と出
て一面の何なるり
驟雨の時にはありて
下流より谷川と
引し勝川は流れ
けりなり何とせ世
をり云朋れて川紙
理に高樓花散り浮と
はく歌舞の妓婦
花やふ出立て
あふさまいのめれ
たふさだぬ
あふさ
ふさふさ
ふさふさ





祇園社

祇園社（下）の原紙面（一）より居（二）石柱ありて感祇院（三）といふ堅緻
あり照高院道晃親王の條より西南の樓門より所隨身（四）いすに
神殿（五）れ中央（六）の太政所（七）牛頭天王（八）東（九）向（一〇）八王子（一一）西（一二）向（一三）八（一四）本（一五）田（一六）堀
柝祇園牛頭天皇坂愛宕郡八坂卿感祇院（一七）と勅語（一八）せし盤（一九）錫（二〇）を
聖武天皇（二一）に奉（二二）宇（二三）天平（二四）八年二月十八日吉備大臣唐土より帰朝の
時播磨國廣峯小岳（二五）に少祇園（二六）崇（二七）を（二八）り其後常住寺（二九）に十碑
師園（三〇）如上人（三一）神託ありて帝城守護（三二）の為貞觀十一年に遷座（三三）しより
より中臣（三四）抜抄（三五）小曰清和天皇貞觀十八年疫神崇祇（三六）ねと世の
人疾（三七）ふ悩（三八）むを収（三九）め外（四〇）之（四一）晨（四二）祖（四三）日良磨洛中（四四）の男女（四五）を將（四六）て六月七日
十四日疫神を祇園（四七）に奉（四八）祭（四九）苑（五〇）より送（五一）りより年々（五二）の如くありけ
て祇園（五三）舎（五四）といふより神樂（五五）を並所（五六）を八坂卿感祇院（五七）といふ寺
より（五八）に祇園（五九）も（六〇）なりやと昭宣公（六一）の所（六二）殿（六三）を（六四）は（六五）りて（六六）なり祇園（六七）
の祇園（六八）は尋常（六九）に殿舎（七〇）造りて是祇園（七一）後舎（七二）といふ後人（七三）又祇園（七四）の

名紙（七五）かへり（七六）談（七七）曰（七八）祇園（七九）は寶殿（八〇）の中（八一）に龍穴（八二）ありと云（八三）ん延久（八四）の
頃梨（八五）子（八六）座（八七）主（八八）師（八九）主（九〇）其深（九一）く祇園（九二）と云（九三）んといふと云（九四）んハス十
小押（九五）ひてゐる祇園（九六）と云（九七）ん
善所（九八）前（九九）の素戔（一〇〇）鳥（一〇一）の所（一〇二）より後見（一〇三）殿（一〇四）の太（一〇五）己（一〇六）貴命（一〇七）と云（一〇八）ん具（一〇九）外（一一〇）孫（一一一）社
末社（一二）の圖画（一三）は又（一四）と云（一五）んえと大師（一六）の神（一七）殿（一八）東（一九）の庇（二〇）の向（二一）ありと云（二二）ん安永
七年繪馬堂（二三）の画（二四）より（二五）と云（二六）ん日本（二七）略記（二八）曰（二九）天延元年（三〇）五月
藥師堂（三一）に觀慶寺（三二）と号（三三）に奉（三四）尊（三五）ハ藥師（三六）如來（三七）他（三八）ハ傳教（三九）大師（四〇）之（四一）陽（四二）藏（四三）院
の勅願所（四四）として岡基（四五）ハ園（四六）如上人（四七）といふ（四八）當寺（四九）の後（五〇）孫（五一）
祇園（五二）所（五三）靈會（五四）六月七日十四日山録（五五）の行旅（五六）系（五七）礼（五八）の例式（五九）其外（六〇）五月廿九日
六月十八日の神樂（六一）洗（六二）ひ等（六三）世（六四）の知（六五）所（六六）なりと云（六七）ん及（六八）ん凡（六九）俗（七〇）俗（七一）の
系（七二）礼（七三）多（七四）といふといふ會（七五）ハ神（七六）小（七七）奉（七八）觀（七九）の如（八〇）くといふハ皆（八一）く足（八二）は（八三）くといふハ
より臨時（八四）系（八五）ハ近年（八六）三月十五日に執（八七）行（八八）ありと云（八九）ん古（九〇）六月（九一）十五日より走馬（九二）勅樂（九三）東遊（九四）所（九五）常
々何（九六）といふけの神事（九七）ハ元朝寅（九八）の刻（九九）より天下（一〇〇）安全（一〇一）ハ祈（一〇二）禱（一〇三）なり

新古今
梅はく

遠くもの

あつりおの

あつり

日と

あつり

の都

をく天竺



それ梅はく本朝比土の
名をうり具種はく
六十九品ありを種はく
洛東の比はく温純はく
梅樹相應はく清香はく
凌はく梅はくあり中はく
梅樹はくあり中はく
よりはくむはく
梅花の詩はく
其澄はく梅はく桃はく
の空はくあり梅はく
久はくはく今清朝はく
長はくはく梅はく
契はく本朝はくあり
くはくはくはく
貴はくはくはく



金玉山雙林寺



西郷上人は徳政を
改林と云ふ人
所は房をすしそ
よめり

改林と云ふ

所
ま
ろ
し
り

5

藥房

70
}

de

召

五

表紙

費

ク

そ
か

3

1870

花の

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

東大谷



東大寺
本住寺
同正定
寺あり

東山長樂寺



遊長樂寺

路迷驚嶺通靈崛
眼渡鴨河望帝城
心在空門齡已老
須辭俗境脫簪纓

藤李經



園山安養寺

風さつ

三萬石の

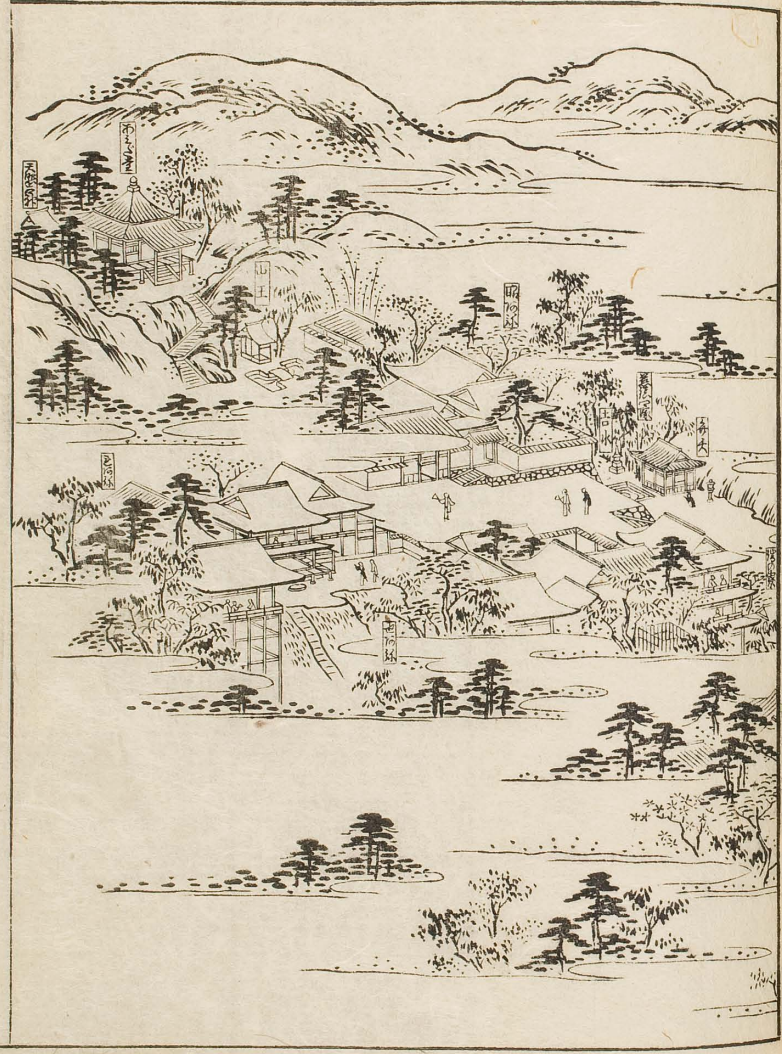
久しれい

都ふろく

秋の

やまぐせ

意法



東山長樂寺ハ大谷の山に隣りて其の山に傳教大師ありて其の
台に別院あり當山に致景の唐土に長樂寺と似たりと斯號
と其の後に國阿上人住持して時宗とありて本尊ハ十一面觀音あり
傳教大師唐土より歸朝せしめし海上より龍神歎とあり頭より
るれ像衣戴する大師に拜偈作るひたれい急務とてその像衣乃
袖小飛來あり當寺に本尊を臺座の下に蟠龍ハ大師に似て
され謂るり己上縁記辨財天に社ありこれ社形も大師制也ありと鎮守
と一の山に傳教庭造を相阿弥の住して世に名を勝地あり
又當山ハ洛東第一の風景と風城九陌の大路小路ハか辰二葉ハ大宮
より南ハ旭の峯淀の川影流ゆき舟と眼中鳥精れ客とを
運華水の隆寛律師といふ台宗の僧後ハ法然上人の弟子とありて
專修念佛の行者とあり八十歳ありて寂其時地ありて其墓花生とて
安徳帝御衣の帷に當寺に什寶と

園山安養寺ハ長樂寺にあり其の山に別院ありて傳教大師に開基と

本尊の阿弥陀如来に安阿弥の他建久年中に慈法和尚より其後
時宗と改免國阿上人住持せりとあり盲人源照といふ者琵琶の妙曲
を奏せりハ天聰に達し後小松院の恩寵を蒙り紫衣を賜ふ是盲人
紫衣の始といふ源照とあり當山に新築一世に名譽ありとあり
とねがふ終ふて願を成就せりハ當寺の本尊は建久
吉水の井に鎮守を財天に傍あり慈法和尚は住持也青蓮院宮内侍の
法親王灌頂の時その衣版因かき夜添文に例式の列を弘し
未臨しゆし師より返せらるるといふ
當山坊中ハ書院に昇りて高橋より清奇典麗いり方なり
庭中ハ石版疊んで庭泉を催し池と鑿ていみじく人緑樹芳艸四季
花錦を蹴踏の履に音添く中小も多藏房石版の庭相阿弥の他い後
也の書院の画に雪溪の筆ありと其後陽徳鑑に地多ありといふ地は傳教の





華頂山入谷寺知恩教院の澤土宗の惣本寺ありて鎮西流義なり元祖
 園光大師宗風開發の靈地なりて吉水れ禪房とい足あり初に東に後
 今れ勢至堂れ地なりて大師入寂のゆゑ也
 聖霜のころて山門十二代の座主青蓮院慈法和尚は然上人の私淑依
 隨信一のひひ地を寄附しゆ昔に今れ園山と稱せし面よりて吉水れより
 至て 台命を蒙り嶮岨を穿て平坦とて今れぬく伽藍淨建宮を
 略東の 山門は揭々華頂山の額に靈元法皇れ震筆なり本堂大谷寺
 大慶より
 の額に後奈良院の宸筆なりて源弥の壇上より園光大師の像紙安坐
 西の向より翠簾を巻上り壇上に 神牌を崇奉り大師れ廟塔に東の
 山上にあり勢至堂小掲り知恩教院の額に後柏原院の宸筆なり本尊
 勢至菩薩の安の他之 授よりゆへる像なり 是をあり勢至堂の傍にあり
 大師入寂の時聖衆來迎し茶雲水面小影を異香水氣小遺まりといふ
 一心院に具ありて本尊阿彌陀佛の安の他之
 拆え祖大師の傳記を鑑小災他より本南條橋岡の庵より久米押願深

時國母の秦氏を子たるに欲て夫婦諸より佛神を祈り秦氏を
利刀を飲と受て則妊身となり長承二年四月七日午時男子を誕は時案を
空ふたまじに白幡三流降せりて鐘西より掠のふ止鈴鐸四方ふしに
紋彩日小のやれ七夜を経て天小雲を是よりけ樹紙誕生掠と号後小佛
閣を建て誕生と號して今小あり赤子の字を勢王と号けゆるに歌を
の餘り般若してやもされ西の壁ふ向ふの癖あり九条より日圓の菩提
の室小入て字を院と號し初學といふ人信小兒の量を勸めたる是只今あり
徒小過鄙の塵ふはなる紙押とて比叡山西塔れ小谷持寶坊源光よりと
以初學書稱小日進上人聖文殊一體とあり時久安三年二月十三日入洛して
初學の書を持寶坊より源光をね紙披けて文殊の像紙をね小兒の
上洛せり使者よりいとも兒の聰明なる紙智せり則十五日に香山
源光試ふに四教義を授り義をさして不審をる經入所なる天台の要論
より不思議のるにといひに紙傳せりといひていふるにや一月年四

月八日小兒を相具して功德院の阿闍梨皇國をへ入室せし皇國具られとれ
るに阿闍梨を發て曰去夜の夢に満月室へ入るをみては人小多ふと前北より
とて悦みたるは年十月を發を利戒檀院にて大系戒をうけり斯く惠
解天然ゆて四教五時の瘳をのむ心三觀の妙理王をみく所なる教師
の教よりそり阿闍梨を感て曰學道は多業とげ天台の棟梁とる人と
なりくそめたるは是も又利の學業よりとて教師席を辭て去安六年九月
十二日十八歳より西塔黒岩の慈眼房虚空ありに於て我初推るに源道の
志願ふりたり演をねをまめて女離のなとる是は然道理の聖なりと
感て法然房と号まを源光の源と虚空の空を括んで源空と號する黒谷小
蟄居とて出要を求るを即るに何まの道より生死を離る人たと初經を
披せんやるに五遍よりけまに諸の經論をついてはつく思惟せりたれめ
あとも高し遂に惠心の後生要集并善導和尚の釋義を必く指ふとせり
此の釋具に乱相の凡そ稱名のり小より順次小淨おせりるを判せり藏經

粟田口
御猿堂
午頭天皇
佛光寺廟所
親寫聖人
植髮尊像



栗田山
日岡峠

古今
うためと
うためと
のり
その
あつち
ふ乃
林
あつち



東海と
り
あつち
山
人
あつち
あつち
あつち



華頂山親鸞聖人植髮の尊像佛坐の廟所の東に隣る舊普連院門跡の院因小在り近來地改められ堂舎を遷し華頂山法皇と稱し宗廟の天台ありて親鸞聖人を極く正信偈文念佛を以て文章等の勅行あり奉尊阿彌陀佛の坐像紙安坐一石の壇上の厨子に置るを安んじ之よりて立像あり小茶の直衣小袴紅梅の巾着を袖に飛甲形の指差を着し雲綯縁の襦小坐て兒童の巾着より作らる像を人皇八十八代高倉院所尊承安二年小聖人誕生一のひは六十六歳冠鎌子官苗孫有範御と申母八幡を即我が姉子對るも我親れ皇女なり聖人如きより出離道世の志願ありしけれ九歳の春有連院慈徳和尚の許より華れ髪を羅のひは子より範母の絶言御よりより奉り獻獻を初る小坐る天台止觀を明外處に難行を捨て易行の法を奉り念仏の一流を以て通ぬ云法和尚聖人の刺髪を御額を以て之を奉り髪を所許小被せりあるを植髮せり

粟田神明宮は清和天皇所宇賀觀年中に勅遷しの人 關西の山あり東岩藏真性院は神明宮たの山よりあり奉る十一面觀音像安坐あり王城の四方に經王を藏り具石藏の一なり 初ハハ藏あり應仁の亂に國祚と云中ハ大日堂不滅あり奉る六月廿八日計日消しと稱され所ハ安井御門跡の於みして當上の土を陶工の可なり粟田燒清水坂の土等以て此の土を用ひ疏上水いむ一源牛若丸金賣吉次小具せり 陸奥へ移れり一 時平家の侍國を市とす者牛若の弟牛小藏といひの疏上水一の牛若丸をたて拔て各市をとりめ市等より故多く依捨通りありたりとつ初一に日固の峠より西より西より四面にありて其中小付還るあり俗ハ姥と稱し千本ハ毘沙門堂の御道の小あり峠の梅香店ハ地蔵を安んじ奉食上人の像を造り牛若丸の功を助く量救水ハ石部之の池のより勝る矣是の部後人の得を以て之を碑の銘待所あり

清廟野ハ日固の東をいふ天智天皇の清廟ありといふ中江あり四人姓來の人馬駕より下り物取より通りより館より里より清の傍るれを忍れまゝとて上りてふより一よりぬ世より十陵の旁より天智天皇所馬小に於て

花山
山林

蓮花

小町



新橋

名所

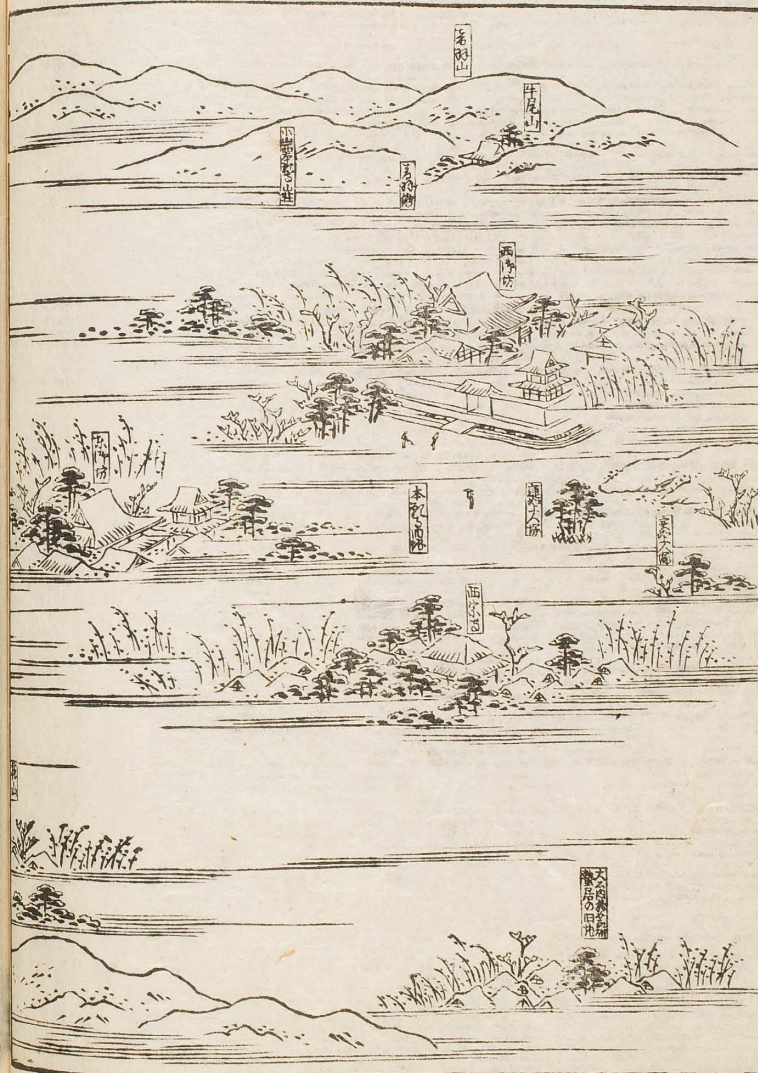
舟に揺る

月夜

園のあけ

さくら

り



新橋

名所

舟に揺る

月夜

園のあけ

さくら

小町

大町

ふ林に里を狩りしひ忽ちくして登るありし所より所皆の所止ふ
所小陵を登建たり則所皆をく陵の南小あり 天皇の所皆石の
吉祥と安祥寺の所皆の東あり真言宗ありて紀別高野山寶性院乃為
帶所より俗呼んで高野堂とて本尊十一面観音より傍小地藏堂あり
惠運僧都入唐の所皆来りし地藏堂より當寺の條殿皇妃の所皆あり
貞観元年の建たり 初の地如意山壇の谷小あり天皇御中今地也
と掛毘沙門堂の天衣宗ありて所皆の法親王より本尊ハ毘沙門天の立
像ありて同基の僧教大師あり

諸羽明神の社ハ天兒屋根命天を玉命の二坐を鎮まり 社在り東と西の
才四の宮ありしゆへとの名あり又今の小園城より流る小川
右の廣大よりて面のはるに後遷の土橋を之下流より村なり
廻地城ハ諸羽の東あり小野堂の作りて七道の辻の具一より平清盛
の命ありて西光法師の建たり
退分り京所伏入大津の驛路より通分の石小柳ハ保元平治の文を収刻し

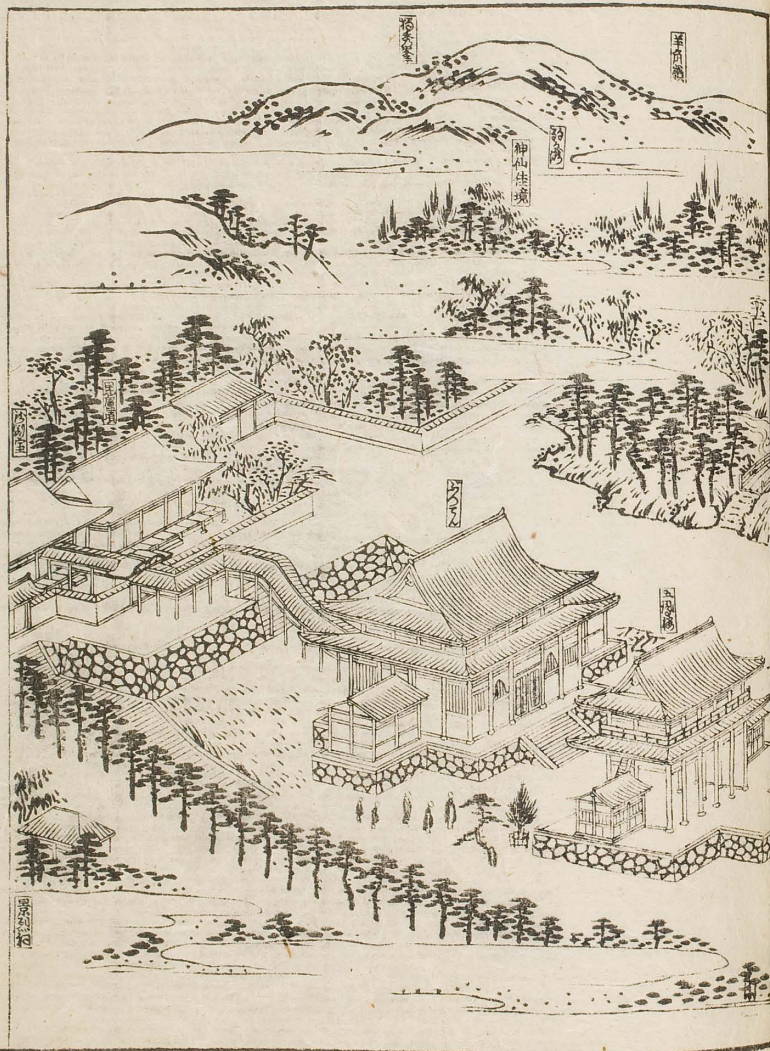
音羽山ハ牛腰山といふ 越前守より東南のふより音羽山小山村の道なり
ありて海の小川あり是を音羽川といふといふ林音羽流りて古より
ね秋多し 山莊あり今西本莊寺の跡なり け流る石よりた小橋
て牛尾観音堂より通小安殿石あり 行旅居士の皆けり腰掛石結成
個子勝音羽流る流の右あり仙人窟五丈巖をたの岨を穿るあり
四丁小あり地ハ瀨ハ險活のた小ありて銚石具右あり
新橋 音羽川あり 音羽の園のありて白く長風 宗尊親王
音羽の花咲ぬ 音羽の園のありて白く長風
音羽の松吹風の音羽川ありても涼しと乃ゆく 後園寺道
音羽川ありけの音羽も岩越て園のありて長くふなり 定家
時々の音羽の里に近たりと都の人れありていなり 前大臣
牛尾山法蔵寺ハ七曲の上小あり真言宗ありて本尊ハ十一面観音とて天智天皇
の所作昭士ハ不動毘沙門天入行處居士延法法師の像安坐に天智
帝の社神明社あり 不動明王像ハ神祇の像あり里龍藏金王ハ堂前より

[illegible]

續古

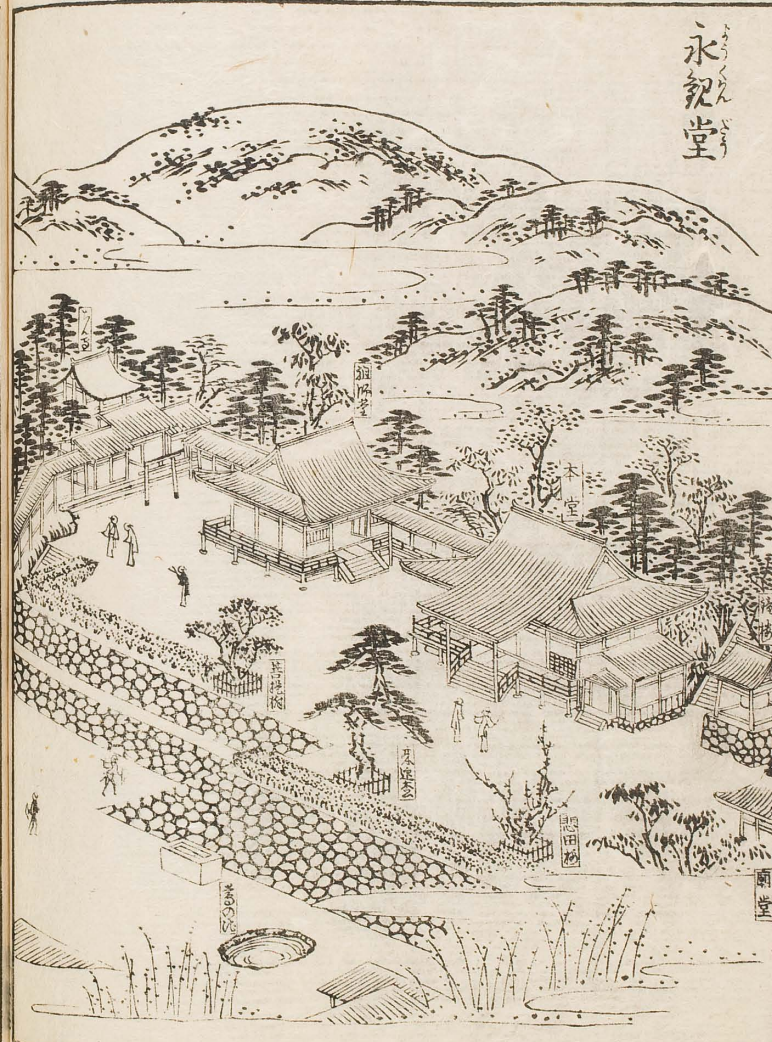
續古
あゝそれ位ある海軍提督を殺しうのまゝと悉くした
津守國基
其古集賊道といふに今に廣合殿をいふ明寺王章は賊尊々あるの付處とてを小野
小町公を道にたてたてとてわれ等先安親の喪慕痛滅の爲に依て依能は後因は盡せ





瑞龍山左平興國南禪寺の東之際の小なり舊 龜山法皇は皇居ありと
岡山大明國師小幡て五山之上の號を蒙り當山の記小曰 太上皇龜山
院弘安寺中ふじ地離宮をさるるのみ正應のころを宮中ふわ
一なりやうて嬪妃大なるをあり陰陽頭ふわふ上平むり小故
寂勝光院僧正道智むり けい小棲世ふ豹の僧と稱し其靈のさうて
當山を秘惜して障屏をさるるなり故小顯密の諸師呪術巫祝ふ
ふ百計をなす同四年東福の釋普門 當寺の岡山より龜山勅命を領し
二十の禪侶を率て宮中小安居し只ゆるく視るなりて坐禪する
物怪跡を匿し上下安穩に上皇膚感のあり普門をれて伽梨鉢を
さるるなり又宮をあらためる寺なる 上皇の上の宮小安居のふ下
室をさるる上檀の鳥の画い古法眼 遂小命ありて佛教を創建のふなる
元信の水春の虎探出きて紫衣を 釋が佛の坐像脇士の文殊普賢あり又金剛力士の二體を安んじ
け力士の靈像は圓縁のふたの南の壁とふい 龜ふと上皇の神牌をさるる

儀ふに建康百太臨濟の像を安んじ 佛殿ふ最勝堂山門の五鳳橋と
號して寛永年中藤堂高虎の再建なり 用ひてそとある 唐本乃
白檀二株山門の隅より石の大梵經一基山門の外より高武大余
石白川の産りて希代の大體なり蓋石の寶祇ふ二引龍の紋あり
又地輪の上小文字あり 南禪寺山石體修實を永五年九月十五日の
奉龍池の乾小あり皇當山の鎮守なり 又行きの通衢は後戸別所といふなり
あり土人の伝ふ小祠は建康永年中に 南禪院より龜山法皇の衣彩を
傳へ英倫和尚を造りて山門の地致するなり 安んじ金地院より清宮ありて白砂に鳳凰竹を植へ梅門を左右に隨身乃
像を並當院の同祖の父業和尚五山僧祿司の號を蒙り豹の跡ふ東の家
獨秀峯小あり大僧正道智常ふけ瀑布を愛し憾後小靈をさるる
當寺の護法神なり社を跡の側は遠てふわ神仙佳境といふ 通智を
寺入道持政道家卿の息なり三井に長史 藏春峽壑雷橋といふ跡の邊ふあり
彈林まきうして又狐の傳ふといふ 羊の用銀の天授院の東の峰をいふなり



永観堂
えいくんでう

子王若



聖衆奉迎山禪林寺永觀堂の南禪寺に隣ありて西山流之
 本堂の阿弥陀如來を顧尊尊と號を長三人余の立像あり當り舊
 清和天皇の勅願所として真紹僧都れ草創之中奥の開基永規
 律師永保二年二月十五日晨朝衆僧より行道の念佛聲をあげ
 信感はひるるべく乾の方をさぐる踏踏せり奉尊檀有りたり
 のひて永觀とて顧命ゆへ律師感涙を流し是を末世乃虎
 生を振取引接の證ありとて自ぜの由縁に記されたり
 の皇子永觀僧都のまゐり南都東大寺の知進職小補やと四十二番
 うていれ雨居ちくく降を徴して住持因等のまを著せり
 善導大師より因光大師西山より之を安んず當りより直言あり
 遍所よりして法堂の威後履が集る披閑して一向を修めざる
 ふくちの歸依ゆいて本運長くの爲に大教を轉授と具例あり
 の額法海の二字の芳標高きれり聖衆奉迎の松の堂ありあり
 夜四方に異香薫り音楽聞て雲霞未集の粧ひい松の枝ありそ
 山号は智中門のたふ化の學校あり舎下には諸堂あり

正東山若王子の永観堂の山は隣りて修験道は靈藏一聖
 後院小属は本社熊野之所権現宮は後白法皇の勅法傳若一
 王子を鎮座は観音堂は那智山の本地十一面観世音を安置
 具一南に山下は流あり 那智の流をうけて當山むく宮殿壯麗なりて殊に花
 の名所なり鹿仁の松ありてとくく龍潭よりくく
 靈芝山光垂至る若王子の山は隣りて南禅寺天授庵英仲和の
 再興は佛敎を尊釋世佛を安置は地ありて霊芝を産て光を空に
 映しるは北殿より殿ありて霊湯ありて感しるは東後門流り當
 寺は清建宮ありて瑪瑙石の石鉢鉢佛敎は後小の當寺の奇觀あり
 鹿谷の靈鑑寺御殿の前をふりて談合の具ありて二町ふありてわりの
 俊寛僧都の山莊あり 新大納言俊親平判度康賴等所は
 金合まゝありて後深と金一い 如意嶽のふれ等小
 して樓門龍天木の古松四五本は下小あり 鹿谷より八町 流のふれ余りて長
 空より雨の後水増え近はけけは殿殿は白雲を覆て合流して
 万の音聲流を流りて後深は近に山山峻嶒ありて常小人跡あり

靈芝山光垂寺



住蓮山安樂寺



住蓮山安樂寺の鹿谷にあり本尊は阿彌陀佛の坐像なりて惠心れ此より
 脇土に親も勢至を安置し其は運慶れ此よりと當寺は法然上人
 如法念佛を修めり此より徒才住蓮安樂の二僧小僧属めり此より
 後鳥羽院の愛妃松虫鈴虫の二婦而る修の勸入せんでけ房室なり
 尼姦上皇太子逆鱗めりて二人の僧を刑し法然上人を四圍ふた遷と
 其後多経て念仏の法を唱ふるも此より住蓮安樂の二師を用ふ
 善喜山万無寺は旧所あり本尊は阿彌陀佛の坐像なりて惠心の作は開基
 万無上人古は法然上人の弟なり此より修多佛を修めり此より
 院も號と本堂のあり銅像の地蔵尊を安置し客殿の底に靈水を銘
 を記す水はひたれ松風蕭然とてつひに鉢のまたをひて時禮讃の聲
 は出谷不礙一寂寥とて峯の月がくくくあり廬山の白蓮社
 ともたふらとて清淨无塵の佛界あり
 世に六字に梵の客佛
 を鹿ヶ谷に流しといひけるの
 あり



鹿谷法然院

黒谷
金戒光明寺



紫雲山金戒光明寺黒谷に藤土鎮西四ヶの本あり之祖國光大師の
旧蹟ありて叡山西塔の黒谷をうけりて新黒谷と称す本きふに祖
大師の像紙安んた脇壇の厨子に親鸞聖人の像あり其自
他より阿弥陀堂の本尊に恵心の他より親鸞堂の本尊に妙基の
他より千々の像と安んた合陽親鸞の其之勢至堂に法然上人の廟塔あり
則勢至堂後の化現より慈谷堂あり蓮生法師自他の像を主敦盛の畫像紙
淵主堂座の下に五輪の像あり
安んた二重塔の文殊菩薩の像に日本二文殊に其より丹後初ノ
松脇安路脇主鎌倉居士
優駿和尊者
優項王善財童子等の四像紙安んたそれと紫雲石塔の如きあり之祖大師宗
世に照春日八幡住持の神像といふ大那服と紫雲石塔の如きあり之祖大師宗
開發の附け不より其をさぬるいさ異香堂よりあり紫雲の號に
は彌小なり磐石壇
掛松に慈谷次郎真實上人の教小歸入着せ鐘をば比あるは松
小懸車蓮生法師の鎌倉二年九月十四日生まると云と諸方へ自ら經より
あひに松縁の道依地より唐紙圍繞一共高聲念佛
と云(如松皮衣なり)くうけ西へ向ひえ祖大師體を神宮の神勅よりて漆
具目の未神はかりをさるけれと云ん
土安公の要文をまゐるの心を一枚記清く(當山寺の竹定より毎年二月は日

鈴聲山眞正極樂寺眞如堂の天台よりて因基に戒律を令り奉尊の如來陀依
の尊長を天子慈母大師の位より極い尊像に別志賀郡由鹿明神より神
本大師のひは本夜毎に光明を放怪と刻にあふ佛形鮮小あり故には尊像を
彫刻を承れ五年小大師入唐ありて天台五臺よりて顯密の奥儀を究引算乃
弥陀経に傳ては十四年小師朝せり經まの引算の一事を失ふありたり西方爲ひ移
誓より小舟の帆小像の弥陀香煙小を成就如是功徳壯嚴と唱り大師威
儀を歩か衣衣小の歸朝まを胎中に終る小大師五世の間に敎山常行堂に安
坐なり其後永觀二年の春戒律より多に眼落小して一切法は汝利無はと
靈夢をまじふと云毎夜の梵城堂小のをも其夜の告終年固に檜をを生くる所是
有縁のたるといふをなほ傳せよれをある白川女院の離宮と云は夜女院よも告
るに先き中遷一正曆二年秋宣下ありて伽藍を建てるあり
に之を祿五年に名給陽永極今出川よりいかに遷座ましと云り
應仁の比田中里の族女はなまふ目録念佛をせと知符のよりある時社堂に眼に内障り
付るを云ふに兒は眼をそはし五劫思惟いたかぬと云ふ



神樂圖
吉田社



新橋古今
万代を
よびつる
お家の
たぐぬ
吉田社
神樂
無誤



吉田宮齊場所の神樂園あり

神代のやゝ天照大神の御宇に於て小入の八幡宮に神樂を興へしと云ふ事あり

當社は清和天皇の清宇貞觀二年中納言山陰卿の初詣又一説小入に

最上神祇齊場あり其清水谷實秋卿の等より一説を教へる宮なる

日本神祇二千二百三十二座を鎮座する日本最上日高宮の額に後深を

れ表す云々宮の額に後土御門院の震業日本國中二千餘座天神地

祇八百萬神に額に清水谷實秋卿の筆に八神殿の額に後土御門院乃

震業は社に因表の時神祇宮ありて八州守護の驗神祇宗なる内

外の各神宮八神殿の左右あり日本史中の神祇に本殿の兩殿あり

びてあり云々と表す神祇宮に於て春日の社の西の麓あり是も山陰卿の初詣

あり其外松社あり云々本國不足たり明里水ありて所里ありたり龍穴に

洛陽寺に新造の殿あり其靈神ありて神祇宮に於て新造谷寺の初詣に

當所二配の固山ありて神祇宮に於て神祇宮に於て神祇宮に於て神祇宮に

長徳山知恩寺百萬遍の法土鎮西四ヶの一を寺ありて其神宮なり

て慈覺大師の神創り法然上人鴨下上依尊信ありて感應をばいしとて

弘通ありありなり神皇を神宮並をありて末世に生れ一技をばいしとて

寺ありありなり當寺を改て金佛の道場とて徒才勢親房源朝大

小僧属あり師盛の男あり無双の智者といひ後醍醐天皇の清宇日本

太子疫癘流行して死するもの數あり帝太子は疫癘ありて清の祈禱を

とて其に驗は時小當寺の八世善阿上人勅命ありて星を祈せ

り善阿桑肉して其に驗ありて七日の間念佛とて一百万遍の疫

病あり退て天下安堵に帝太子感ありて號を百万遍と賜は

時弘法大師の筆に利師の本堂あり祖大師の像に安坐なり本師堂の釋を本

い慈覺大師の師に鎮守の神宮に法樂の神樂ありて堂前に石碑に

建之年中小松因府重盛奉朝黄金を造る具志を感て裏陽乃龍

興寺名刻の阿弥陀經を賜る今流前國其形と據と云へ

一心不亂のこつた一の

僧ははく不經に盤錫に



長徳山知恩寺
百萬遍

慈照寺の鹿ヶ谷の山にあり一名銀閣寺とも稱し禪宗ありて後窓
園師を同祖より原付地の足利八代の將軍義政公文明十二年に
世勢を譲りて閑居しゆ別荘なり故に東山殿と號し延應十二年
四月七日に
龍ののりて慈照院殿喜山公と法名
遺命にのりて此所を寺とす

東求堂ハ義政公の持佛堂ありて觀世音經を尊し又慈照院乃
像を安置し西のく上壇ふかろ水引ハ濃茶れ印金より吉液あり
て並に稀なる奇物をも若松の画ハ相阿弥れ筆剛々多ハ永納れ畫之
茶湯の間に四疊をすいて東山殿の物敷あり茶亭四疊を北藍膳
とて高貴の賓客常に集會ありて茶の乃紙樂と稱漢の奇物と
號せしあれと後世に傳りて時代物といふ

二重れ高窓あり山鹿園寺に金閣より上を公空殿下と稱音閣といふ
鎮守ハ幡宮ハ護國廟とありく窓れまに格ありて分畧格迎仙格
羅錦格臥雲格といふ異のくは龍泉ありは月泉と號流下れ格

を龍脊格といふ仙袖格仙挂格ハ東求堂れまにあり慈照園みを
躑躅斑格らまそ夕陽を止む向月臺銀沙灘みハ白砂と稱し落
月と惜む細川石畠山石ハ名石ハ官領職の献ありて具英名ハ後
世に朽む浮石坐禪石ハ池中にありて冷砂臨山の傳あり龍蟠
石蹲虎石卧牛石伏虎石點頭石布袋石天柱峯圓雁峯香爐
峯を具石の形よりて号ゆ之北斗石落星石壽星石懼後石
謝公塢ハ故事歟以て名く其外大内石欄柯石釣月臺仙人洲白
鶴嶋臨湖臺仙草壇ありなりれは孤月まの舟といふ神位庭ハ
東山殿れぬありて桑道相阿弥台命を蒙りて造りたり庭中れ
風光真妙ありてふかの法式をそれと四時の壯觀足らどといつる
る一末代庭造の軌範とよりて洞庭西湖も掌り振り松橋泉
湧も目前ふくく壺中小山川を縮免一粒の粟中に日月藏
藏しより神仙れ術ありとを云ふなり

銀閣寺



我店ハ
 月日の
 山の
 林森みそ
 かうく屋の
 ち
 ち
 ち
 ち



毎々七月十六日の
 夕暮大なるほろりたる
 秋風さの後山ぬるる霧の
 ひりひりしたる土まじり
 土合の如きありたるは縁に依
 一し世間縁の時いふ事小なり
 老翁もあらずいふ事を奏す
 存する所の地を安んず
 まうり干固金今ふ光
 明の如くしと他うたふ
 やりたり其後弘法
 大師大なるあつと
 のり星飛羅くくさ
 の初も塵の東山
 相國さの後川和尚
 命をたえのあつ
 他つた人の
 初畫の一とちと
 九十二のありし
 冬の日暮の月も



けふまふふふ
 はりてはゆの
 恥とちまねぬ
 者のふふふ
 とぞい
 ゆう



北白川銀閣寺の小きり里れ名ありて川を民家の中を西へ流る

是る名所之白川の基なり

後拾 五後れ人よりわきわきの園中もわきわき花を白く 民の郷長家

白川のまれ梢を足渡せし松をそ花の傍るなりたれ 後頼

新後撰 秋の夜は月も澄みと光るれ世にわたりぬ白川のみ 為教

け里へ洛より近江の志賀坂平への往還より志賀へ山越ふ素性法師

が君代すむの名をわたりたりとほけぬ白川の龍の道は傍よりて

日陰を晒し川に半に橋ありてくわぬ石もたえし流もろとく

引もたまりて谷の水も沸騰して沸ふわかれの花をそ若くは流

清くともそ皎潔なる月の影園に橋のやうに牛石といふあり

形は牛れおとろに似たり是よりわたりて山中の里あり比叡の無動

寺へをけ村よりまれば細道より山に入るものこの一家より川を忍び

小よりてあ車ありてあ

志賀の山越ふく井のとくあてわたりてあつたるの別をよりけり

むとめてれまふにちあ山の井れわきもふ別ありてあ 貫之

志賀の山越ふく

日 山河小風のうけをそそ流もあぬ紅葉なりたり 春通和樹

山中けり白川の里より一里すふありて山城近江の境なり 長久保

ふ橋よりけりけり家よりたえ三井あり入相の傍に志賀のうへ風あふと

琵琶湖の風景一眼の中に盡て地勢揚々としてあふ雲のけり

干菜山光福寺の百万遍れ小あり豊長秀吉公小干菜を多く敷

たりけ號を焼る 俗は干菜山 又志賀念佛れ本寺より有免許ある例奉

六月は五日近郷より集りて志賀念佛を執行しなり

丸生山將軍地蔵の白川のわたり原にわたりて顔あり寶曆十二年

け地へ遷ると尊なる佛の地蔵尊長二人の像と 足利將軍中城郭に

細川暗え將軍山に影城のうへ長亭 元

又より具原にける像も城中に安きなり

小白川



小白川の
里人の
石工の
業
おもしろい
石を切
り出す
水車

其外さぬの
物の編み
石工の
業
おもしろい
石を切
り出す
水車

おもしろい
石を切
り出す
水車





山所坊親聖人の舊迹に一粟まれば卿中舞樂寺村あり西をれるの
懸所よりむづい山門の末院ありて法堂嚴重なり境に靈水あり
故に聖水山舞樂寺と號を聖人嚴獄ありて一宗開發の志願願ふ
てい所ふ来り百日別行一靈水ありて垢離一ゆい洛陽六用堂救
世觀るにのゆい運ひなり又ありて夜夜中に聖德太子此地より
ありて生極木の要文を授けり又ありて化力本經の一統とみ末世の流
す化益益なり靈水經白石より法堂にあり永正年中より
堂舎嚴然なり具後荒廢なるを奉教ありて代實如上人所堂を創
ありて寂如上人の代小堂舎に山移へりなり
如上人當所主門徒小命せし再所堂を建立しゆて
詩仙堂一粟寺村に主ふ至り南方より石川丈山の公莊之表に小石
の額あり中門の額に梅園後次の額に四凸窠詩仙堂の額に嘯月樓
下の峰要四壁より漢晋唐宋の詩人二十餘人像を畫則其人の

詩をよみしり考るる画の狩野尚信とを故に詩仙堂といふ

た一 德武 謝靈運杜審言李白王维高適儲光羲韋應物韓愈劉禹錫李賀杜牧寒山

石一 陶潛 鮑 昭 陳子昂杜甫孟浩然岑參王昌齡劉長卿柳宗元白居易盧仝李商隱孟郊

林逋梅堯臣歐陽修黃庭堅陳與義 九十八

又ふれ讀み詩仙堂の翼の方よりあり正保二年舞樂村の中ふ

毒壙を築て額仙祖と號を大正二年八月廿五日奉と年九十五

天王社は一粟寺山下里松の東にあり古に舞樂のやうなる八丈金

を奉り末社の諏訪八幡宮に比の氏社ありて例祭に二月又日あり

赤山の社の修學寺村の東ふにあり是は大師を奉りて歸朝のやに

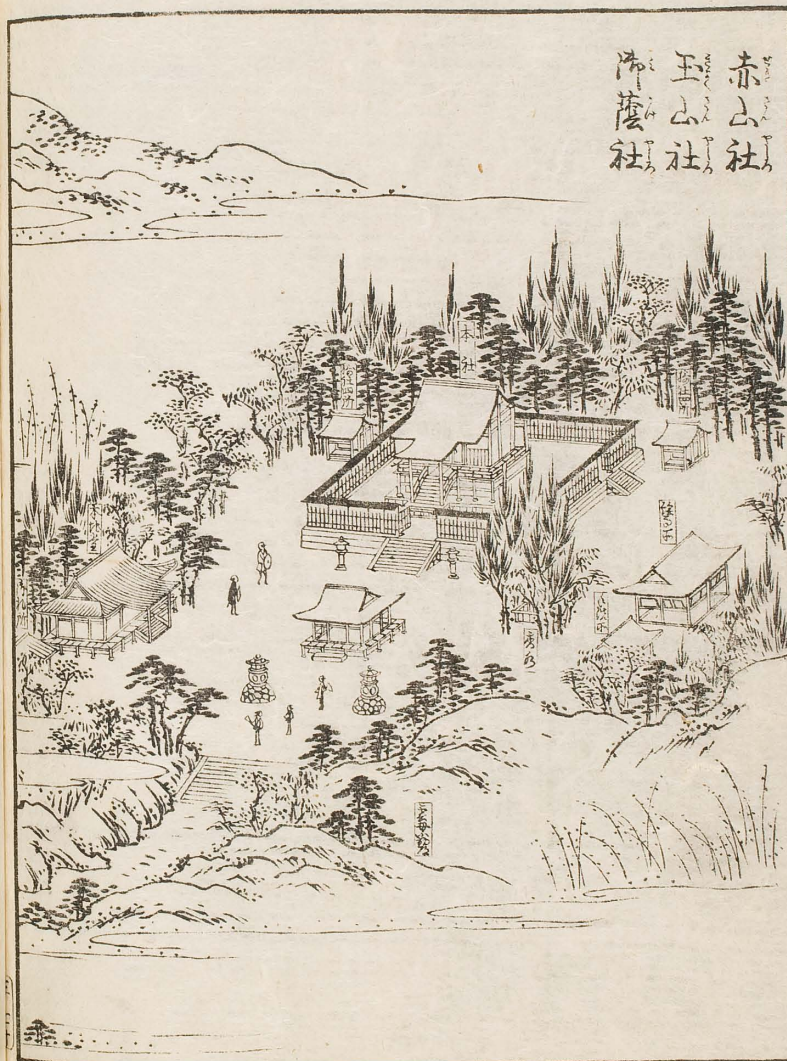
明神の白羽の矢角より船の上に見し大石守邊よりありて神社

よりてい所に細清なり轉念の節當社の神れを奉りて神前に如意の

梵堂をふ所ふのり奉堂に地獄菩薩ありて是は大師の梵堂なり

玉山稻荷社の高野村にあり原内裏ふあり祠あり享保五年中い地へ

傾らく所あり



河蔭社を敷山の西麓高野川に東小あり下鴨皇を神宮臨乃
たより故小津生ふといふ例系は四月中の午の日にあり内裏より恒例
は系式魏々として氏人騎馬して烈々正一社をみ錦蓋をかじ
楯鉦弓等の神具をめぐり烈々ふるふと下鴨神社臨幸の事
かいて祈るそのとれふ人ともあはれそのやうなり 雅經

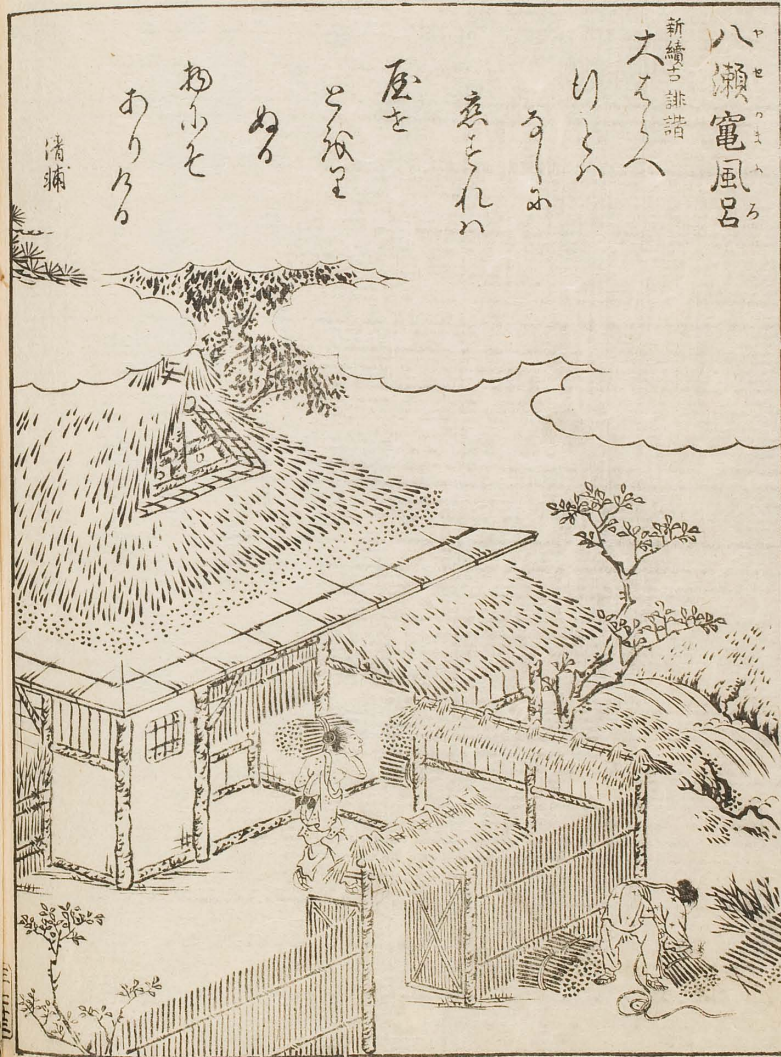
矢背の里高野の北町小あり天武帝大友王と位を譲ひ山城の
小へ馳ぬひ一時王子の軍兵追ひなりを討たれ河有矢中より
けふ人名にスハ能 當所小電風呂あり天武帝此矢の功を念ふと
あけらひと始り 今も電風呂七八軒ありてゆまも風をたふさる
大原八瀬の小一里小あり若狭街道にして東西小ハの郷あり 上野村
大長瀬村 東近院村 勝保院村
井出村 野村 草生村
舊 日救ぬり雪けふはさる炭竈煙もさひ 大原乃里 式子内親王
大原いふれ高野の近れに雪うり程はさひをせられ 西行

惟喬親王遺跡は上野村にあり 聖墓ありて五輪石あり御居の地は
西方院 上野村小あり 同墓は 梅取院 大長瀬村にあり 本尊は 弥勒佛
融通寺に未定院村の云うにあり 本尊は 弥勒佛の坐像ありて

湛慶の位より同墓良久上人の像あり 當寺融通念佛の同祖を云ふ二奉
是自化不二平等融通を不可思議廣大の善功なりといふ
魚山未定院は融通寺の東小隣る本尊は二尊ありて中央は藥師佛 九釋
同墓は良久上人の像あり 敷嶺西塔の小谷ありて昔は坊舎一百余あり

一より魚山と號するは漢土の天台山の西は太原魚山といふに所も大
台山の支ふるをいふ例なりといふなりと云
音無龍は未定院の東四町あり花泉二大余ありて翠岩石小僧ハ

て南へ落る蒼樹蒨鬱として陰涼なる所小徹し毛骨悚然といふ
く近なり
小野山のふりなり落る所の名の所はよのふり神あり 西行



ハ瀬電風呂

新編古俳諧

大いふ

ありふ

あるれい

屋を

とんぼ

ぬり

おふを

ありふ

清瀬

大原
勝林院
本迹院
融通寺
岩の影
岩津川



新古今
世をそむく
ういづるも
あめく

大原山
信より
さわ

同古今
あつる大原
の

いづるげの
ねをこそ
つる

おね井尾



朧清水の寂光院の不とりふありむのしらきなるをみりてわが
詠もはるに多しはひは涙々やうして月の影に清水はやよりと澄み
又月の皎々たるうらへて清く退還法師もいづれは幽棲として月も浮はん
大京やしゆく寂然法師の月をそよぐ大京の里とるなりむのしらき
今さうに水の面よりと出るやうになんたりたり

新拾

水草の清底をまゝの糸いふや

柔遠法師

讀史

入月の務の清あいなとほめはるかに新紙也和ん

順德院

讀後

ハヤ藻^{はやも}志^しけ^けも^もに^にむ^むと^とふ^ふハ^ハ縹^{へい}紅^{こう}清^{せい}水^{すい}衣^いも^もあ^あん^んし^しと^と

蓮房

新千載

つゝ其の後の清水岩城をとりやうともなほ不慮哉

後賴

7.4

すれふちく 銚の里に住きて老に清水を飲ばるるなり

丹後

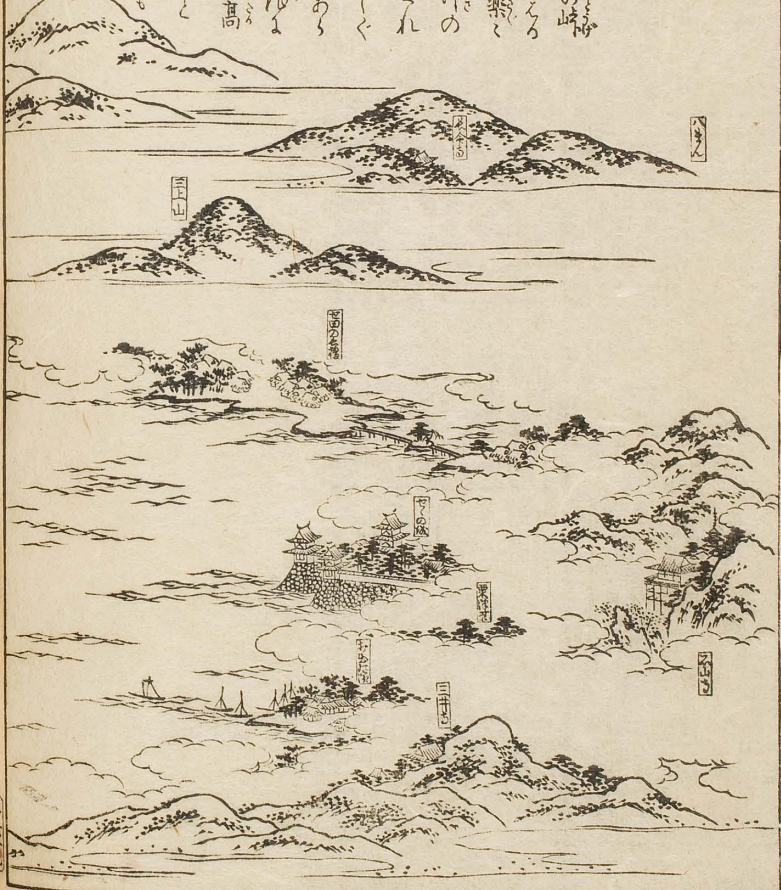
に文のやゝろへ系井生村小あう系卿中の氏祚之字賀魂祚坂すの

例祭ハ三月三日神樂ニ基あり

江文社



巖嶽不動寺の峰
 より琵琶湖をくろ
 うにみおろせば無
 波の丹波ぞり沖の
 舟はねをふにかくれ
 ぬ 舟の松のタイぐ
 まに翠れどなめ
 り 浪のまの砂地よ
 駈どめては良の高
 根の花をふんぐと
 泳 頼政の青も
 おひめれは
 王維の山水れ
 画賦の遠人か



回 大山人
 樹す馬の人の
 旋もけ所なりれ
 雙眸の遊りく
 淡海の八勝連
 錦く七近衛
 政家卿も魂と
 うこくめい
 佳境あり





西塔 寶幢院と號し西塔の東谷より九坊南谷より十坊

法華堂 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

阿彌陀佛を奉安する堂なり 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

五手靜觀僧正建する堂なり 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

藍持僧正を奉安する堂なり 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

傳教大師の御影を奉安する堂なり 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

安樂院 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

中堂 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

飯室 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

大講堂 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

大師堂 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

無動寺 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

不動堂 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

大東院 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

山王七社の中客入宮なり

無動寺 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

不動堂 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

大東院 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

山王七社の中客入宮なり

無動寺 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

不動堂 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

大東院 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

山王七社の中客入宮なり

無動寺 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

不動堂 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

大東院 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

山王七社の中客入宮なり

無動寺 寶幢院の寶幢院の轉法輪堂

日吉山王社に比叡山れ守護神なり東坂本にあり奉社七座攝社十四座

凡廿一社有り例々四月中申日

大宮 伊弉諾命 二宮 國常杵尊 聖眞子 正哉吾勝尊 八王子 國磐槌尊

客人 伊弉諾尊 十禪師 瓊々杵尊 二宮 惶微尊 以上七社

下八王子宮 天御子尊 王子宮 文珠尊 早尾 不動尊 大行事 毘沙門尊

聖女 下姫尊 新行事 瀧津姫尊 牛尊 八王子尊 小禪師 孫勒後尊

惡王子 愛媛尊 岩瀧 吉野尊 氣比 仲夜尊 釵宮 不動尊

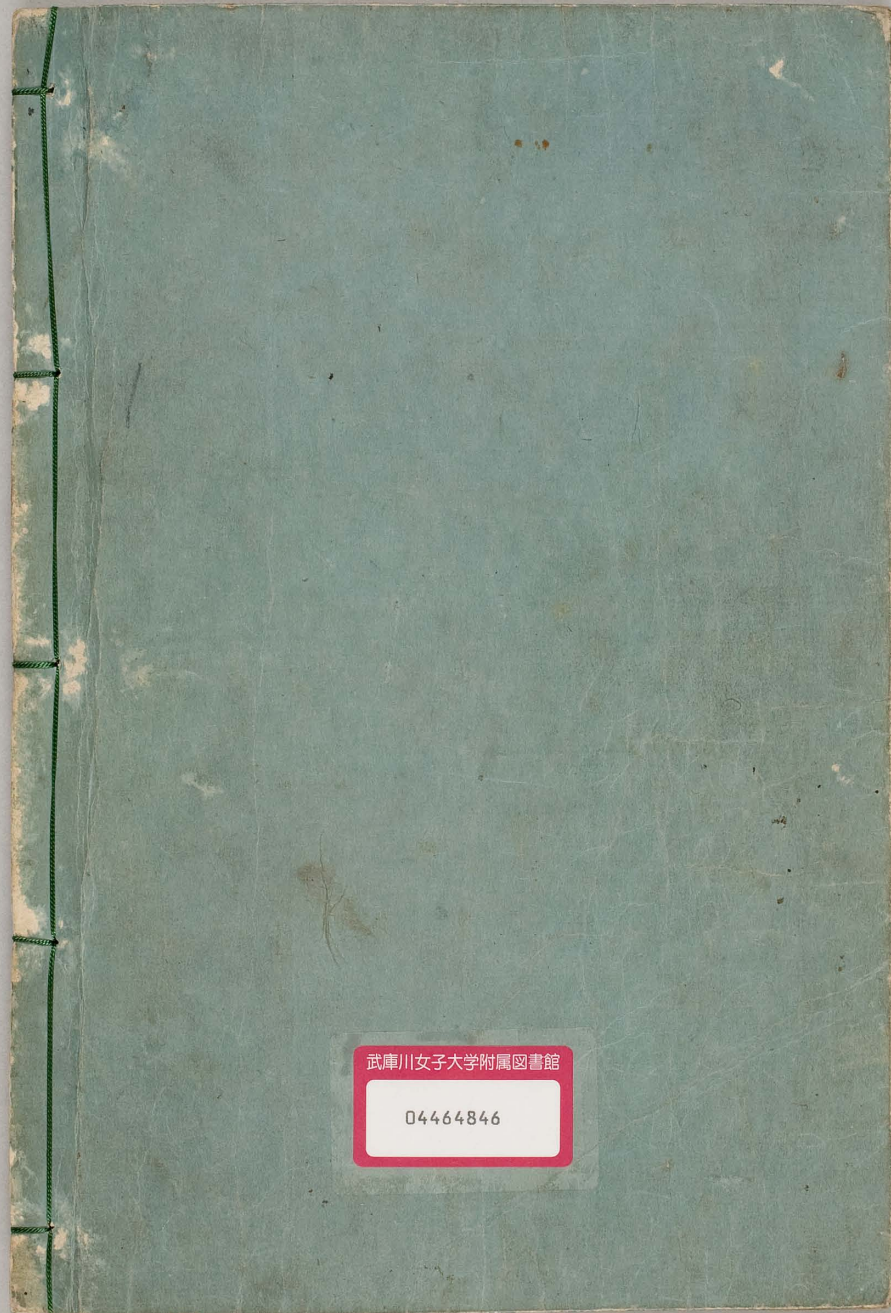
大竈 大日尊 竈殿 大日尊 以上十四社

若宮 國常杵尊 護國 比叡山尊 女別當社 唐湯神社

やううろ光へつとけの西のや井れ秋乃よの月 邦良仙

ふへんの鶴の林に散たのちのふらふらあはれ風 後藤徳政

久々の天津日吉の社に月のはるも光そへたり 尊園



武庫川女子大学附属図書館

04464846